

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ A**

グループ **A** 第2ラウンド 小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

**ご検討いただくこと**

①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。  
 ②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。

**小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態**

② 小遣  
 ① 生徒数の増加で、複式学級、男女比率 (男女2対1)  
 保潔員担  
 複式学級が多くなる  
 ① 複式学級がある状態  
 ② 先生不足

**そのように考えた理由**

児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか	教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか
<p>児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか</p> <p>① 対話的な学びが減少                  ② 先生との関係が個人・肉親になる                  ③ 個性・学習進度が落ち、他には対応しきれない                  ④ 個人学習が中心になる                  ⑤ 集団学習で生活リズムや課題を自覚の覚悟で解決している                  ⑥ 学校イベントなどの思い出、<u>交流を感得</u>                  ⑦ 同世代とのコミュニケーション、遊びの思い出</p>	<p>教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか</p> <p>全ての活動が限定されてしまい                  ① 児童生活の制限、社会性の学びが小さい                  ② 遊びが限定され、学校に集まりが低い                  ③ お金が少なくて、対策がとれない                  ④ 集団活動が減少する(学級生活)                  ⑤ 学習進度が落ちる(個性・学習進度)                  ⑥ 学校生活が中心になる                  ⑦ 教師の負担が増える                  ⑧ 個人学習が中心になる(自覚)</p>

**ポイント** - 結果共有のための発表から

- 小規模の良さはあるが、少人数であれば少ないほどいいのかということではなく、その限界はどこかという話し合いになり、一つは複式学級がある状態のことが出てきた。
- 小学校では19校のうち13校が小規模ということ踏まえると、学校生活において望ましい集団活動ができるのかということ、要するに、望ましい集団活動が学級活動、学級生活、学校生活においてできているのかということが話題になった。
- それぞれの理由は下段に書かれているとおり。

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

# 令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ B**

## ポイント - 結果共有のための発表から

- 小規模な教育の良さが得られなくなる状態については、学校は児童生徒の社会生活があり、社会性を育む場でもあることから、児童生徒の社会性が育まれなくなる状態ではないかという意見が出された。
- 理由としては、児童の学びの観点からは、同年の仲間、さらに同性の仲間がないことが精神の発達の段階において、集団が築けないバランスの悪さによって社会性が育まれなくなる状態になってしまうのではないかと考えた。また、学びの範囲が制約されてしまうことも影響があるのではないかと考えた。
- 教育活動や学校運営の観点では、PTA組織や地域で支えていただけた方々の協力体制の維持が困難になってしまうのではないかと考えた。地域の中では高齢化や人数の減少が危惧されるため、こどもの学びの体制を支えることが難しくなってしまうのではないかと考えた。

グループ **B** 第2ラウンド 小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

**ご検討いただくこと**  
 ①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。  
 ②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。

### 小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態

- ① 児童数の極小になる状態
- ② 保護者負担が大きくなる状態 (地域)
- ③ 子どもの社会性が育まれなくなる状態 (毎年に1人下り / 学年内で同性別の子に偏り) 極端な

社会性が育まれなくなる状態

### そのように考えた理由

児童の学びの観点から  
 児童や生徒はどのような状態になるか

- ① 1人1人の様式になること、主体的な学び、ことごとく1年生の様式は1年生、高学年に向かう習慣をつけること、1年生、高学年、高学年、高学年
  - ② 子どもの活動内容のセーブ、学年、高学年、高学年、高学年
  - ③ 学校の集団で学ぶ ← 同年の仲間がいなく、(課題に対する解決策を学ぶ - 全学年が育まれない) 互に学ぶ
- 同年、同性、異性のバランス  
 学びの範囲が制約される

教育活動・学校運営の観点から  
 先生や学校、授業はどのような状態になるか

- ① 1人1人の負担の大きさと内容のセーブ
  - ② 地域の支える人の高齢化、人数減、協力体制の維持が難しくなる
  - ③ 協働学習の仕組みづくり、子どもたちの主体的な学び、ことごとく環境の整備が難しい
- 協力体制の維持が困難

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

# 令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ C**

## ポイント - 結果共有のための発表から

- 児童の観点において、さまざまな機会がなくなったり、競争心がなくなるなど、徐々に活動量が限定されていってしまうイメージで、なおかつこどもの場合には学習の場だけではなく、教室や学校というものは生活の場でもあるため、その生活の場の中で身につけられるものが育ちにくいという場合には、限度としてあるのではないかと考えた。
- 学校運営の視点から考えると、地域と学校の関係性がとても大事になってくるため、その地域に元気がなくなっていく時には、限度ではないかというような意見があった。
- 以上から、一つは地域からの協力がなくなった場合、いわゆる学校と地域の連携や協働の継続性の担保ができなくなってしまうこと。
- もう一つは、学校側でいろいろ工夫してくれてはいるが、その学びの環境がこれ以上整えられない場合には、限度ではないかという状況の2つが挙げられた。

グループ <b>C</b>	第2ラウンド	小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？
ご検討いただくこと	①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内を書いてください。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。	
<b>小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態</b>		
① <u>地域からの協力がなくなった場合</u> (学校と地域の連携と協働の継続性が担保されない) > 児童生徒数より多い (極小人数にすぎない) 地域での人口減 (学年2-1人)		
② <u>多様な学びの環境が整えられない場合</u> (最低2-3人) 地域性はある。		
そのように考えた理由		
<b>児童の学びの観点から</b> 児童や生徒はどのような状態になるか	<b>教育活動・学校運営の観点から</b> 先生や学校、授業はどのような状態になるか	
・ 地域との関係性がなくなる ・ 話し合いなどの機会がなくなる ・ 競争心がなくなる ・ 活動量の限定 (体験的学習、校外活動、異年齢学習)	・ 地域からの補助(金銭面)がなくなる ・ 地域に支えられなくなった場合 } <u>支えの弱さ</u> ・ 人口流出、歯止めがかからない。 > 学習者が見逃される場合	
学習の場 ↔ <u>生活の場でもある</u>		